

---

# 夜と愛と

野火俊弥

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夜と愛と

### 【Nコード】

N3171E

### 【作者名】

野火俊弥

### 【あらすじ】

ナンセンス。中途半端な男と女の中途半端な愛。意味を求めても仕方がない。愛を求めても仕方がない。行方も方向も未だ知らず。

トミーは、時たま死にたいと思う時が在って、そんな時には決まってローゼスを普通の人なら死んでしまふような量を飲んで、最後には横になって朦朧とした意識の中で私の膝小僧を求めて左手を伸ばし私を探して見つけると、安心した様に眠る。

私の膝に擦り寄せた酒の温度で震える体を擦りながら冷笑的に見る私は、何て寂しい人間だろうと思う。

トミーは、泣きながら自分が生きている心地が分からないと言つが現実に生きて居るのに、何故そんな事を考えるのだろうかと思う。

彼曰く、心が一つ所に落ち着かないのだそうだ。その心の動きが生きている事よ、と云うと不思議そうに隈の浮いた目を瞬かせた。

トミーは、いつも卑屈な性分が滲んでいる様な前屈姿勢で歩く。

子供の頃に車に撥ねられて以来曲がったままの左足に付けた恰好悪い矯正具を重たげに、がちやつかせながら不器用に体を揺らして歩くトミーは酷く滑稽で愛らしい。

私はトミーの温度が好きだ。

私はトミーの匂いが好きだ。

私はトミーの傷が好きだ。

私が愛しているのは、トミーの影ばかりだ。私の愛何ていうのはとても薄っぺらだ。

「君は俺の事を好きかい」

「好きだよ」

「死んだら、泣いてくれるかい」

「泣かないよ」

ナンセンスな質問と答えの向こうでトミーがあまりに悲しそうにするから私はニコリと笑って、一緒に死ぬ？と言つとトミーは、更に悲しそうな顔をして、君が死ぬのは嫌だなあと言った。

床に置いた矯正具のヒンジが放つ鈍い銀色が何時もの事のように小

さく私とトミーを映す。

また今日も泣かしてしまつたが、私はトミーの慰め方はキスくらいしか知らない。トミーの中はローゼスの苦い味だ。キスの後に現れる悲しそうな笑顔が好きだ。

光の無いばかりと開かれた目の奥には、私やその他の人間なんかは映っていない。

涙ばかりの存在を、私は溺愛している。そんな理由だけで私のトミーは存在できる、涙を流さないトミーは好きじゃない。

瞑った目蓋にキスをして、死んじゃ嫌よ、と言ってはみたけれどその言葉も届かない。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3171e/>

---

夜と愛と

2010年10月20日16時30分発行